

新聞雑誌結束用品の商品化支援

山口アドバイザーによる支援

新製品の製品化、権利化に協力して欲しいとの要望を受けたことをきっかけに支援を開始

特許出願に向けたサポート

- 本技術の機能を分析して、その構成原理の裏付けを考える手助け
- 前記原理を基に、応用できる範囲で上位概念化を試みる手法を支援
- 特許電子図書館(IPDL)を利用した先行技術調査方法の指導
- 先行技術文献の分析および本願との比較支援
- 進歩性を主張するポイントの抽出支援
- 特許出願の権利範囲整理等明細書作成の指導

有限会社工房いるか

以前より新聞や雑誌を紐で容易に結束できる製品「ひもくるりん」を販売

今回地球環境を考慮した素材がすべて紙でできた結束用品「ひもキッチリ」を新たに開発

新商品を特許で保護し、知財を有効活用したい！

- 模倣品を排除したい！
- 同業他社と差別化を図り販売促進を！

特許情報活用による成果

▶ 特許出願 1件
特願2009 - 80381

商品開発における知財情報の重要性を認識
知財を活用し、環境改善に役立つ製品を開発
製造を福祉作業所等に依頼することで障害者の職域確保に寄与

この支援によって開発・販売された商品

商品名 「ひもキッチリ」

この商品は、新聞や雑誌の回収用に縛るためのもので、紙と台紙でできており、簡単・確実にまとめることができます。すべて紙でできているため、どこの自治体にお住まいでも安心してお使いいただけます。

支援先企業の概要

会社名	有限会社工房いるか	代表者	山崎 彰一
住所	東京都墨田区	設立	1999年
ホームページ	http://kobo-iruka.co.jp/		

山口 英彦(東京都知的財産総合センター)特許情報活用支援アドバイザーの一言

支援企業工房いるかの山崎社長は、社会的使命感と強いアイデンティティーを持った経営を行っており、墨田区の福祉政策にも寄与しています。その製品には必ず意外性が秘められており、使った人を楽しみ気持ちにさせてくれます。

しかし、ほとんどの製品が日用雑貨品なので、先行技術調査をすると必ず類似の可能性のある先願が見つかります。今回は、そうした状況の中で、何処に進歩性を見つけ主張するかが権利化可否のポイント、ひいては事業の成否につながるもので、綿密なディスカッションを心がけて支援を行いました。

今後は、無料の先行技術調査、早期審査制度の活用等特許権取得に向けた支援を行いたいと考えています。



平成22年1月現在

